第22弾

年末も近いのでYAの軌跡を振り返ってみた

A「12月ですね。今年も早々と一年が終わってしまいます！」
M「YAの軌跡でも振り返ってみる？今年も色々やったわねー。」
F「えーと。2018年最初の展示は『出発だよ！４〇秒で支度しな！』」
A「・・・一瞬何か分かりませんでした。旅の本の特集でしたね」
F「年始からヤングたちをどこかへ飛ばそうと・・・」
M「あと『わたしのやんぐ時代』というほぼ年齢バレまくり企画もありました。ワタクシがＦちゃんに書かせたホンダラケの文字にも注目してほしいわー。クッキー文字っていってすごく流行ってたんだけど」
F「最近はパソコンのマウスで手書きですね。何気に毎月違うんですよ」
A「今までの展示でもう一度したいものとかないですか？」
M「私はもう一度もっふもふがやりたーい。」
A「動物ものの特集でしたよね。２年前ぐらいですか。なつかしいです」
M「一般展示の方でスタッフのペット紹介をするのが夢なの。でもよく考えたらペットを飼ってる人って限られてるじゃない！犬を飼ってるのは私とＯさんぐらいで、ＮさんとＳさんは猫か」
F「メダカなら私飼ってますけど」
M「メダカはもふもふじゃないもん。あとは毎年恒例のホラー特集。」
A・F「・・・・・・・・・。」
M「え？なに？ダメなの？」
F「えーと。一部から『怖い』という意見が・・・。」
M「それってＦちゃんじゃないの？じゃあもうちょっと怖くないのにしてみる？似たようなのは・・・ミステリーかしら？**展示飾りはホラーのままミステリーを並べる。**これでどうだ。」
F「いや、おかしいでしょう！」
M「えー。じゃあ幽霊？」
A「あっ（話をそらす）、紙面も少なくなってきたことですし！来年の抱負など、どうでしょう。みなさん何かありませんか？」
F「特にはないです」
A「即答！？」
M「うっかり何か口走ったら、やらないといけなくなるから言わない。」
A「ええ！？」
F「何かしてほしい展示などありましたらホンダラケポストに投稿してください。ご意見お待ちしております」
M「ホラーはだめ？だめなんですか？」
A「ううう。来年もYAをよろしくお願いします・・・！」

←続きはブログで！http://sanda-city-lib-ya.sblo.jp/

YA通信

ホンダラケ

H30.12.1 Volume.29

今月は、読むのが嫌いな人はもちろん、読むことが好きな人にも新しい発見をくれる「絵を楽しむ」本を集めました。

挿絵☆研究所

おじいちゃんとパン

え・ぶん/たな　パイ・インターナショナル2017年刊　726.6/17

絵本に見えるけど、分類は大人向けの一般書です。表紙だけでヨダレがでそうですね～！
食パンにいろんなものをぬって、甘くして食べるおじいちゃん。それをじーっと見つめる孫に気づいたおじいちゃんは、一言。
「なんだちびすけ、食べたいのか。しかたねえな」
実は我々職員の間でも大好評だったこちらの本。おいしいパンのイラストはもちろん、二人の間に流れる時間の経過があちこちで表現されているのがみどころ。１ページずつ、じっくり見つめてみてね。

ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のＹＡ（ヤングアダルト）コーナーでご覧いただけます。
２か月に１度、年６回発行予定です。
ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。ＹＡコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

青春読書記
～三田学園図書委員会より愛をこめて～

今月のテーマは「学園生活」。
さて、どんな学園生活を紹介してくれるんでしょうねっ♪

鹿男あおによし

万城目学：著　2007年刊　幻冬舎　F/マキ

あおによし、は奈良を舞台とした和歌の枕詞によく用いられる言葉です。鹿のイメージとも一致しますが、「鹿」ではなく「鹿男」とは何か。タイトルにひかれて思わず野口氏を一枚掴み勘定場に直行しました。（これは万城目先生と私自身が出会った記念すべき１冊であり、今回紹介させていただこうと思いついた次第ですが）…以下略

P.N.西浩一（中３）

ここから彼の本格的に内容紹介文に入るわけですが、とてもじゃないけど紙面に収まりません！近日中にブログにて全文掲載！

リサイクル予備軍 ～なぜ君は借りてもらえないのか～

少年少女名作絵画館　セザンヌ

中山公男:監修,長谷川三郎:執筆　サンケイ新聞写真ニュースセンター　1986年刊

10 年以上も借りられていなかったこの本。同じシリーズの他の画家の本は過去に借りられていたようですが、なぜセザンヌだけが借りられなかったのか。ゴッホやダヴィンチと比べると知名度が落ちるからでしょうか。「セザンヌと聞いても化粧品以外に思い浮かばない」「セザンヌに限らず、絵画の見方やおもしろみがいまいちよく分かんない」と首をかしげるそこのアナタにこそ読んでもらいたいのがこのシリーズ。この絵を描いた男はどんな人生を歩んできたのか。どんな気持ちで、なぜこの絵を描いたのか。そしてなぜ、彼の絵が名画と呼ばれるのか……？
一見意味不明な絵画が、本を読み終えるころにはちょっと違ったものに見えるかもしれませんよ。

NO IMAGE

723/セザ

ホンダラケポストの投稿を紹介するコーナー

おすすめ本：『夜のばけもの』　住野よる/著
イジメにあっているのにひょうひょうとしている矢野さんの本当の気持ちに気づいたとき、また最後の主人公の気持ちにモヤモヤと考えさせられるお話です。好きな人はめちゃくちゃ好きなはず・・・！

（P.N.豆腐）

F/スミ　2016年
双葉社

M「『君の膵臓を食べたい』で大ブレイクした住野よるさんの本を紹介いただきました！」
A「この作品はイジメがテーマなんでしょうか？」
M「んー…扱ってるけどそれだけじゃない。ある日突然夜中にばけものになってしまった主人公が夜の学校でクラスメートの矢野さんに会い、夜だけ交流するようになるんだけど」
F「それでそれでっ？」
M「そこは読んでのお楽しみよ」
A「変身するということはファンタジー？」
M「それも読んでのお楽しみ♪」

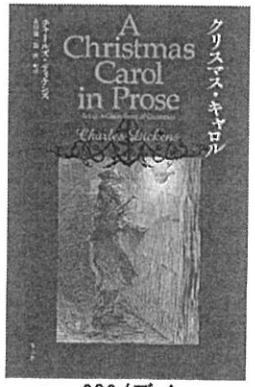
YA世代のために血を吐く思いで名作を紹介するコーナー

『クリスマス・キャロル』ディケンズ著

井原　慶一郎：訳・解説　春風社　2015年刊

僕はクリスマスが来るといつも（中略）それを、ありがたい日だと思うんです。

ディケンズの『クリスマス・キャロル』は、この時季になると思い出す作品です。欲深く、心の冷たい老人スクルージが３人の幽霊（この本では精霊）と出会い、過去・現在・未来を旅することで改心するというストーリーは覚えのある人も多いのではないでしょうか。作中でスクルージは最後には生まれかわって子どものようになり、世界の美しさに気づき、周りの人たちを楽しませ、また自分も一緒に楽しむことができるようになります。心が硬直してしまっているのは子どもよりむしろ大人だという点では、大人のための童話かもしれません。この本はきれいなイラストや詳しい解説も収録されており、おすすめです。



933/デイ